

K.G. WEEKLY NEWS

■発行日 2015.10.19 No.826 ■発行 関西学院広報室 ■西宮市上ヶ原一番町1-155 TEL 0798-54-6017

高等教育推進センター主催

第6回FD講演会 大学教育の情報化

～中等教育との接続から考える～

関西学院大学教務機構高等教育推進センターは、激変する情報化社会を生きていく人材を育成するための喫緊の課題である「大学教育の情報化」をテーマに、大学教職員と初等中等教職員を対象にシンポジウムを開催する。

※ 大学教職員・初等中等教職員のみ申し込み可、無料

■日時: 10月30日(金) 17時30分～19時00分(受付:17時～)

■場所: 西宮上ヶ原キャンパス 関西学院会館 風の間

■申込方法: HighEdu@kwansei.ac.jp へ、件名「FD講演会申込み」として、①氏名 ②所属 ③メールアドレスを明記の上お申し込み下さい。※10月25日(日)締切

■テーマ: 大学教育の情報化 ～中等教育との接続から考える～(概略) 教育の情報化を「政策」と「中等教育の現状」の視点から捉え、大学の情報化を議論します。

■プログラム:

【講演1】 浅井 和行氏 (京都教育大学副学長・教授)
「政策レベルでみる教育の情報化」

【報告1】 合志 智子氏 (関西学院千里国際 教諭)
「情報化による学習環境の変化」

【報告2】 勝田 浩次氏 (大阪府立東百舌鳥高校 教諭)
「ICTを活用したアクティブラーニングの実践」

【講演2】 浅井 和行氏 (京都教育大学副学長・教授)
「大学教育はどのように情報化するべきなのか」

■問い合わせ: 教務機構 高等教育推進センター
TEL 0798-54-7420

大学博物館 学院史編纂室 主催

『Thy Will Be Done -聖和の128年』を刊行して

関西学院大学博物館学院史編纂室は、10月26日(月)に第44回関西学院史研究会を開催する。研究会では、2009年度に学校法人関西学院と法人合併した学校法人聖和大学の歴史を編纂した「聖和史」を刊行するプロセスから見てきた関西学院について、山本伸也教育学部教授と小見のぞみ聖和短期大学教授が講演する。

※一般参加可、申し込み不要、無料

■日時: 10月26日(月) 16時50分～18時20分

■場所: 西宮上ヶ原キャンパス 吉岡記念館3階 会議室1

■問い合わせ: 大学博物館 学院史編纂室
TEL 0798-54-6022

「こんにちは。シュンペイタ教授です」



「こんにちは。関西学院大学経営戦略研究科(IBA)のシュンペイタ教授です。」

玉田俊平太(たまだ・しゅんぺいた)教授は、学内外で「シュンペイタ教授」と呼ばれ親しまれている。イノベーションの泰斗として知られる20世紀初頭の経済学者シュムペーターにちなんだ名前は、お父さんが、勢いにまかせてつけてしまったとか。



シュンペイタ教授は高校・大学生時代、「名前負けして経済や経営の道へは進めなかった(笑)」と理系の道を選ぶ。ところが通商産業省(当時)に入省後、ハーバード大学大学院に留学し、まるで名前に導かれるようにイノベーション経営学者のクリステンセン教授に師事した。

クリステンセン教授は、2000年に著書「イノベーションのジレンマ」を出版し、“破壊的イノベーション”理論により一躍有名に。シュンペイタ教授は、同書の日本語版の監修者を務め、自身も日本のイノベーション研究の第一人者となった。そしてこの秋、“破壊的イノベーション”を日本に初めて持ち込んだシュンペイタ教授は、著書「日本のイノベーションのジレンマ」(翔泳社)を出版した。

過去には破壊的イノベーターだった日本企業が、テレビ、携帯電話などでなぜ“破壊”されてしまったのかを、日本人に馴染み深い企業を例に取って読み物風に紹介するとともに、破壊的イノベーターになる具体的な方法を示す。

シュンペイタ教授は「破壊的イノベーションによる製品・サービスは性能が低く既存の主要顧客には相手にされないもの。しかし、それが新たな市場を生み出します。そのことを理解せず、適切に対処できないしていると、日本産業は衰退の一途をたどります」と警鐘を鳴らし、「企業経営者や、国や地方で改革を担当している人、ベンチャー・起業を考えている皆さんにぜひ読んでほしい」と話す。

次号 10月26日(月)発行予定